

青年部通信

事務局 佐々木 善久



12月26日、青年部は相馬こども園にて行われている餅つき大会に参加しました。保育園に入園している児童の父親部員らが積極的に参加し、餅つきをするかっこいい姿を披露。園児らは、餅をつくタイミングに合わせて「よいしょー」と掛け声。途中、力強く餅をつく姿に「パパがんばれー」の声掛けに父親部員に笑みがこぼれました。序盤では恥ずかしがる園児も餅の完成が近づくにつれて声がホール



掛け声に力が入る園児ら

中に響き渡るほど声に力がこもっていました。

この餅つき大会では、年長組になると実際に餅つきを体験します。中には、初めてきねを持つ園児もあり、一人ずつ順番に餅をつきました。出来上がった餅は、みんなで食べました。年長組の園児らは、自分たちもついたということもあってか、とても美味しそうに食べていました。また、この餅つき大会に毎年参加している福田部長は、「私たち青年部が作ったもち米をこんなにおいしそうに食べてもら



おいしそうに餅を食べる園児ら

えるのは感慨深い」と話していました。

また、同日に以前受診した健康診断の結果説明会が行われました。毎年、部員らの健康増進を目的に弘前市保健センターの方に健診結果をもとにアドバイスを頂いています。健診結果については、やはり飲みにケーションを大切にしているからその結果が見られたようです…自身の健康状態を把握することは、今後も活発に青年部活動を行っていく為にも是非とも今回の説明会でのアドバイスを活かしてもらいたいと思います。

初披露！

清野大輝さん(左)と成田敦郎さん(右)二人が見せた、高速餅つきに園児らも大歓声！

見守っていた、福田部長は「いいパフォーマンスができた。これからも披露していきたい」と話していました。



個別に健診結果の話を聞く部員ら

地域おこし協力隊 活動記

Vol.96



元旦の朝8時に「紙漉の里」を出発。およそ5時間をかけて町内を巡りました

早いもので2024年もあっという間にひと月が経ってしまいましたね。こんにちは、まだお正月気分が抜け切らない加賀新一郎隊員です。

お正月は実家の東京には戻らず相馬で過ごしました。元旦には、紙漉沢獅子舞保存会の町内巡行に同行。もちろん不在のお宅もありましたが、多くの人が玄関先に出て歓迎してくださり、獅子舞が地域の方々に根付いているのを実感したものです。とくに驚いたのがロマンTOPアスキー場に行った時で、おそらくは多くが地域外から来たスキー客なのでしょうが、頭を噛んでほしいと子どもたちが列

をなすほどの人気でした。もの珍しさが強いのもかもしれませんが、逆に言えば獅子舞は訴求力の高い伝統芸能と言えるかもしれません。

ただ、あるのが当たり前となると、段々に関心が薄れていく、ということもあるのではないのでしょうか。一大イベントである「ねぶた」は別格としても、獅子舞やお山参詣といった相馬の伝統行事も昔からあるのが当たり前で、地域の人々にとってけっして珍しいものではないかもしれませんが、ここから意識することも減ってきて、しだいに後継者もいなくなっていく……そんな負の循環があるようにも、よそ者の僕からは思えます。かつて相馬に4組あった獅子舞も、今や活動しているのは紙漉沢だけになってしまいました。

でも、当たり前のものが当たり前にあることの幸せを忘れてはいけないうんです。たとえば、相馬と言えりんどごで、りんどご畑が広がる光景は相馬にとって当たり前の光景です。もし、将来このりんどご畑が見られなくなったら、悲しい気持ち



1月10日には、相馬中学校で受験生を応援する演舞を披露。穂坂隊員が雌獅子を演じました



ちになる人も多いのではないのでしょうか。実際、相馬でも畑をやめてしまう人が増えているようです。相馬の暮らしを支えてきたりんどごがなくなることは、もはや相馬ではなくなったと言ってももけっして言い過ぎではないでしょう。

りんどごだけではありません。凸凹地形に広がる豊かな緑、地域内を流れる清らかな水、市街地では見られない満天の星、そして受け継がれてきた数々の伝統——今はまだ当たり前にあるこれらは、相馬にとっての大切な財産だとも言えます。他に誇れるこれらの財産が当たり前にあることをありがたく思えるようになったら、地域にとってもそこに暮らす人々にとっても幸せなことだと思います。そのような活動をしたいと思っています。

(*) 相馬地区公式HP (<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/>)

